

令和8年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(共通)

別添	なし
----	----

応募概要	分野	音楽	種目	オーケストラ等
	応募区分	一般区分		
	複数応募の有無	無	応募総企画数	
	複数の企画が採択された場合の実施体制 ※			

※ 複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません(グレーアウトされます)。

文化芸術団体の概要	ふりがな	コウエキサ'イタン'ホウジン シンニホンフィルハーモニーコウキョウガクタン		
	制作団体名	公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団		
	代表者職・氏名	理事長 宮内義彦		団体ウェブサイトURL
				https://www.njp.or.jp/
	制作団体所在地	〒 130-0013	最寄駅(バス停)	JR・半蔵門線「錦糸町駅」
		東京都墨田区錦糸1-2-3すみだトリフォニーホール7階		
	制作団体と公演団体が同一である場合はこちらにチェック	<input checked="" type="checkbox"/> ※チェックをつけた場合、下記公演団体の情報は記載不要です		
	ふりがな			
	公演団体名			
	代表者職・氏名			団体ウェブサイトURL
	公演団体所在地	〒	最寄駅(バス停)	
	制作団体 設立年月	1972年9月		
	制作団体組織	役職員	団体構成員及び加入条件等	
		理事長／宮内義彦 副理事長／日枝久 専務理事／林豊 理事／門脇賀智志、川寄靖之、國部毅、小路明善、澤上篤人、鈴木茂晴、高木俊明、竹中平蔵、中田清史、林真理子、増田宗昭	(1)団体構成員 音楽監督:佐渡裕 楽員86名、事務局員27名 (2)加入条件:楽員の採用は当団規定の要綱に従ったオーディションによる。事務局員の採用は当団規定の面接による。年齢・国籍などの条件なし。	
	事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者を置く	本事業担当者名	神崎なつめ
	経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	石川 潔
	本応募にかかる連絡先	メールアドレス		電話番号
		kanzaki@njp.or.jp		0356103820

制作団体の実績	制作団体沿革・主な受賞歴	1972年、小澤征爾、山本直純の「一緒に音楽をやろう!」という掛け声の下、自主運営のオーケストラとして創立。1997年、墨田区に移転。すみだトリフォニーホールを本拠地とし、日常の練習と公演を行うという日本初の本格的フランチャイズを導入。定期演奏会や特別演奏会の他、墨田区の学校の音楽授業、鑑賞教室、福祉施設等での演奏活動等、地域に根ざした演奏活動も精力的に行っている。 1999年、小澤征爾が桂冠名誉指揮者に就任、歴代の指揮者には、初代音楽監督・小泉和裕(1975年～1979年)、第2代音楽監督・井上道義(1983年～1988年)、第3代音楽監督・クリスティアン・アルミンク(2003年～2013年)、第4代音楽監督・上岡敏之(2016年～2021年)が就任。その他、ダニエル・ハーディングがMusic Partner of NJP(2010年～2016年)、インゴ・メッツマッハーがConductor in Residence(2013年～2015年)を務めた。新日本フィル・ワールド・ドリーム・オーケストラの音楽監督に久石譲(2004年～2025年3月)、また新日本フィルのComposer in Residence and Music Partner(2020年～2025年3月)も歴任している。久石とのコラボレーションとして、映画『千と千尋の神隠し』、『ハウルの動く城』、『崖の上のポニョ』の管弦楽を担当。 受賞歴に2006年第3回三菱信託音楽賞奨励賞(アルミンク指揮『火刑台上のジャンヌ・ダルク』)、2009年第18回三菱UFJ信託音楽賞(アルミンク指揮『ベートーヴェン・プロジェクト』)、同年第22回ミュージック・ペンクラブ音楽賞(ブリュッヘン指揮『ハイドン・プロジェクト』)等。 佐渡裕が2023年4月より第5代音楽監督に就任。街・ホール・オーケストラが一体となった音楽活動を行う。	
	学校等における公演実績	設立以来墨田区内を中心に小中学校の体育館へ出向くアウトリーチ、コミュニティコンサートを数多く実施し、近年では墨田区文化振興財団の依頼により年平均30回以上実施している。 直近訪れた学校 2022年11月 言問小学校、錦糸中学校、横川小学校、業平小学校 ・その他、毎年区立の全小中学校で行っている「吹奏楽・プラスクリニック」 ・地域拠点契約を結んでいる可見市で行っている室内楽携帯のアウトリーチ ・三重29市町巡回公演で、今年は2年目として南伊勢市にてアウトリーチ(学校訪問2校)・福祉施設で行う。今後三重県内すべての29市町と連携を取りながらアウトリーチ活動をおこなっていく。 ・2025年12月 東京都立青鳥特別支援学校にて生徒さんに試奏を含めた弦楽器の指導予定。 2025年6月 南伊勢町立南勢中学校、南伊勢町立南島中学校でアウトリーチ活動を行った。	
	特別支援学校等における公演実績	【オーケストラ協同組合 主催事業】 2016年3月 東京都立墨田特別支援学校 2017年2月 東京都立江東特別支援学校 2018年2月 東京都立小平特別支援学校 2018年12月 東京都立光明学園 2019年11月 東京都立光明学園 2021年6月 東京都立城南特別支援学校 2022年9月 東京都立水元小合学園 2022年11月 東京都立白鷺特別支援学校 2024年6月 東京都立青鳥特別支援学校 2025年12月 東京都立青鳥特別支援学校 【文化庁 障害者等による文化芸術活動推進事業】 2019年、2020年、2021年、2022年、2023年、2024年と各10回以上静岡県伊豆地方と墨田区特別恵支援学級に向けて実施 【墨田区文化振興財団 特別支援学級の生徒に向けた音楽療法アウトリーチ】 今年度から始まった事業で、同じ学校へ連続して4日間伺い、アウトリーチを行うことでどのような変化が児童生徒に現れるかを検証する。	

参考資料	申請する演目のWEB公開資料	有	
	※公開資料有の場合URL	https://youtu.be/RWvgxbG6W7w https://youtu.be/defVe6ZC9rg	
	※閲覧に権限が必要な場合のID及びパスワード	ID:	
		PW:	

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団 】

本公演・ワークショップの内容

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	新日本フィルハーモニー交響楽団 ～オーケストラの魅力発見コンサート～			
企画のねらい	初めてクラシックに接する生徒・児童に抵抗のないよう、緩急織り交ぜ、クラシックの古典的な名曲から、民謡を取り入れた法人作曲家の作品まで幅広く選択。比較的長時間の鑑賞だが、飽きがこないよう久石譲「ジブリ」の曲やブラームスの「ハンガリー舞曲第5番」等取り上げ、耳なじみのある作品をバランスよく配置し、いろんな楽器が分かりやすく目立つような曲にすることで、各楽器の魅力を感じ取ってもらい、音楽に対して興味関心を高められるよう工夫した。			
演目概要・演目選択理由	まずは映画音楽J.ウィリアムズの「スターウォーズ・メインタイトル」を皮切りに迫力あるサウンドを楽しんで頂きます。ジブリの代表作「となりのトトロ」より「さんぽ」をお送りし、ストーリーを追いながら、オーケストラを構成する楽器紹介をする 作曲家自身が編曲したオーケストラ・ストーリーズをお届けします。 令和6年度からの試みで約5分程度の協奏曲形式の楽曲（ソリストには当団の若い正団員を起用）をプログラムに組み込みことにより「協奏曲」というジャンルも敷衍できたので来年度も継続する意向。 後半は、ブラームスの「ハンガリー舞曲」を聴いて頂き、直後に指揮者体験コーナーして、あらかじめ学校で選んで頂いた生徒・児童に「運命」冒頭の指揮を自ら振ってもらう。 アメリカの作曲家アンダーソンの楽曲「舞踏会の美女」、日本に古くから伝わる八木節を元に華やか、かつ力強く展開していく「管弦楽のためのラブソディ」を終曲として本プログラム終了。アンコールとして学校校歌をオーケストラverに編曲したものをお届けいたします。また演奏後には、オーケストラver校歌を収録したCDを学校へサプライズプレゼントとしてお渡ししています。演奏時間に余裕があればさらにJ.シュトラウス「ラデツキー行進曲」を2曲目アンコールを予定している。 ※プログラム勘案中のため、変更の可能性あり			
児童・生徒の参加または体験の形態	【指揮者コーナー】 「ハンガリー舞曲第5番」を3名程度の生徒で交代で指揮体験をする。どうすればオーケストラを思うようにコントロールできるか事前のワークショップで話し合いの場を設け、指揮体験に参加することで音楽に対する理解を深めてもらう狙いがある。受け身の音楽鑑賞ではなく、自分自身で指揮をする(またはクラスメイトが指揮を振っているのを見る)ことで、音楽を体感する経験の場を提供出来るのではないかと考える。強弱も分かりやすく、生徒の個性も出やすい部分で、同じ個所を複数生徒に振ってもらうことにより、指揮によって演奏が変幻自在になることを実感もらう。 【学校校歌】 普段はピアノ伴奏でしか歌うことのない校歌を予めオーケストラ伴奏に編曲し、様々な楽器の音色と迫力を感じながらハーモニーの素晴らしさ・オーケストラや音楽の面白さを感じてもらおう。オーケストラ伴奏と一緒に歌ってもらうことを考えている。			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	5	
		鑑賞人数目安	250	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	J.ウィリアムズ:「スターウォーズ」メインタイトル(6分) チャイコフスキー:バレエ音楽「白鳥の湖」より「情景」(3分) 久石譲:久石譲:オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」より、「さんぽ」(7分) 若手の楽員選曲による協奏曲形式の楽曲(8分) 休憩(10分) ブラームス:ハンガリー舞曲第5番(3分) ＜指揮者コーナー＞ ブラームス:ハンガリー舞曲第5番(冒頭)(15分) アンダーソン:舞踏会の美女(3分) 外山雄三:管弦楽のためのラブソディ(7分) アンコール) 学校校歌／シュトラウス:ラデツキー行進曲(5分) 公演時間(上記のプログラムにトークを挟み約90分) ※プログラム勘案中のため、変更の可能性あり			
	公演時間	90	分	
出演者	管弦楽:新日本フィルハーモニー交響楽団			

本公演・ワークショップの内容	演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名	指揮者:検討中 司会:検討中										
	本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数 含む	出演者: 57 名 スタッフ: 10 名 合 計: 67 名		運搬		積載量: 4 t 車 長: 9 m 台 数: 1 台						
	本公演 会場設営の所要 時間 (タイムスケジュール) の目安	前日仕込		有		前日仕込所要時間				時間程度		
		到着	仕込		上演		内休憩		撤去		退出	
		10:00	10:00-13:00		13:00-14:30		10分		14:30-15:30		15時30分	
※本公演時間の目安は、概ね2時限分程度です。												
本公演 実施可能日数 目安 ※実施可能時期については、採択決定後に再度確認します(大幅な変更は認められません)。	6月		7月		8月		9月					
	1日						3日					
	10月		11月		12月		1月					
	5日						2日					
	※平日の実施可能日数目安をご記載ください。				計		11日					
公演に係るビジュアルイメージ (舞台の規模や演出がわかる写真)												
												
※会場条件について最低限必要												
著作権、上演権等の許諾状況	各種上演権、使用权等の許諾手続の要否			該当あり		該当コンテンツ名		久石譲：オーケストラ・ストーリーズ「となりのトトロ」より、「さんぽ」				
	該当事項がある場合		権利者名		久石譲		許諾確認状況		使用(上演)許諾取付済			

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添

なし

【公演団体名 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団】

ワークショップの
ねらい

今年度は、ブラームスの「ハンガリー舞曲第5番」を指揮者体験として実施する。弦楽四重奏版など、ワークショップの人数で可能な編成で指揮を体験することにより、「振り」一本で奏者の演奏自体が変化してしまう「臨場感」を体感してもらい、音楽の理解を深めてもらうことを意図している。各生徒が、指揮には何が必要か・何を意識して指揮をしているのかを考え、ワークショップではその疑問を指揮者にぶつけ、やり取りや実際の指揮体験を通じて、音楽とはどういうものか・指揮をしてメンバーをまとめるという仕事はどういうものかを感じ取ってもらう。よりよい音楽にするためにはどうしたらよいか、児童・生徒自身が自発的に、また互いに意見を出し合い協力しながら答えを見つけていく過程で、自然と音楽への興味が深まるように期待したい。実際に耳なじみのあるクラシック作品で、どのように演奏が変わるのかを体験することによって、体験する側も聴いている側も違いを理解しやすいのではないかと考える。

児童・生徒の
参加可能人数

ワークショップ

参加人数目安

10人程度

ワークショップ
実施形態及び内容

初めによく知られている室内楽演奏を聴いてもらい、間近で本物の音楽を聴いてもらう。
そのあと、指揮者によるトークを挟みつつ、楽器紹介を行う。楽器紹介では簡単なフレーズあるいは短めの曲を奏者一人一人に演奏してもらい、楽器の音色・特色を感じてもらう。ここで奏者への質問なども挟み進行する。
通例だと「どうして音楽家になったのか」、「楽器の特徴、材料やいつ頃作られたのか」等が質問によく上がり、それに付随して普段のオーケストラでの役割などについて奏者より説明してもらう。

その後、本公演で実際に指揮をするブラームスの「ハンガリー舞曲第5番」の室内楽編曲verを実際に児童生徒に指揮してもらい、レクチャーをする。出したい音色に対してどのようにアプローチが必要か、どのような気持ちで指揮をすると伝わるのか等、指揮者と一緒に組み上げていく。
体験コーナー終了後、もう一度室内楽を聴いてもらう。最後に演奏を置くことで、最初よりも楽器を理解している状態になって、興味をもって聴くことが出来るように変化していることを実感させる狙いがある。
WSでは本公演では演奏しない曲も演奏する。巡回公演に応募することで、様々な種類の音楽を聴くことが出来、充実した音楽体験になるという経験を感じてもらえるようにしたいと考えている。

その他ワークショップに
関する特記事項等

■特別支援学級などを対象とする場合
普段と変わらずリラックスして聴いて頂くことを優先し、演奏の楽しさを五感で感じられる場を提供する。弊団の特別支援学校での演奏経験を踏まえ、TVや映画などで普段聴き馴染みのある楽曲も多く取り上げ、緩急織り交ぜたプログラムを組むことで飽きずに楽しめる工夫をした。古典派のクラシック音楽中心に幅広く楽しみながら鑑賞して頂くことで、芸術の多様な側面を感じてもらう。また楽団で購入した野外用の弦楽器（ヴァイオリン、チェロ等）を実際に体験してもらう。2024年6月青島特別支援学校（別事業：障がい者等に夜文化芸術活動推進事業）で実施したところ、生徒が普段手にしたことのない楽器を演奏することにより、心から興味をもって試奏している様子が伺えたことから来年度も継続したい。

一般区分・特別エリア区分共通
No.4(共通)

別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団 】

記載方法等

例年、実施校の状況等により公演実施要件を満たさないことに起因するトラブルが一定数生じています。※以下は、過去実際にあった例です。

- ・会場が狭く、予定していた規模の公演が実施できなかった。
- ・搬入車両が構内に入らず、搬入のための追加費用が生じてしまった。
- ・児童・生徒が時間外の練習を行うことができず、児童・生徒の体験の範囲が限定的なものとなってしまった。

上記のように、公演実施要件を満たさない学校とのミスマッチングを防ぐため、公演実施に際して必要な条件を御記載ください。

任意項目については、学校に伝えるべき条件がない場合には記載不要です。

詳細な実施条件は、実施校との調整段階にて直接確認をいただくことになります。

なお、特段条件を必要としない項目や未定の項目については「条件なし」を選択、または記入してください。

会場条件

(必須)	公演実施にあたり、必要な会場条件を記載してください。				
会場の設置階の制限	2F以上可(エレベーター必須)		主幹引き込み電源容量		100 A以上
舞台設置面積	間口	18 m	奥行	10 m	
	高さ	m			
舞台設置場所	フロア対応	可	学校のステージでの対応		不可
搬入間口の広さ	幅	2 m	高さ	2 m	
遮光の要否	不要		緞帳の要否		有無のみ確認したい
ピアノの使用について	使用しない	ピアノを使用する場合の設置位置の指定			条件なし
		ピアノを使用しない場合の移動の要否			要
搬入車両(トラック等)の横づけ	応相談	トラック横づけ不可の場合の搬入対応可能距離			5 m以内
搬入車両の種類	大型トラック	台数	1 台		
搬入車両の大きさ	車幅	4 m	車長	9 m	
備考	①会場の搬入間口が2m以上あり、搬入ができること ②学校周辺道路が大型車両の通行が可能であること。 特に、学校敷地内にトラックが入る際の曲り口など、十分な広さがあること。 ③学校敷地内に大型バス2台の留め置きが可能なこと。 ④猛暑時には冷房完備のある設備であること				

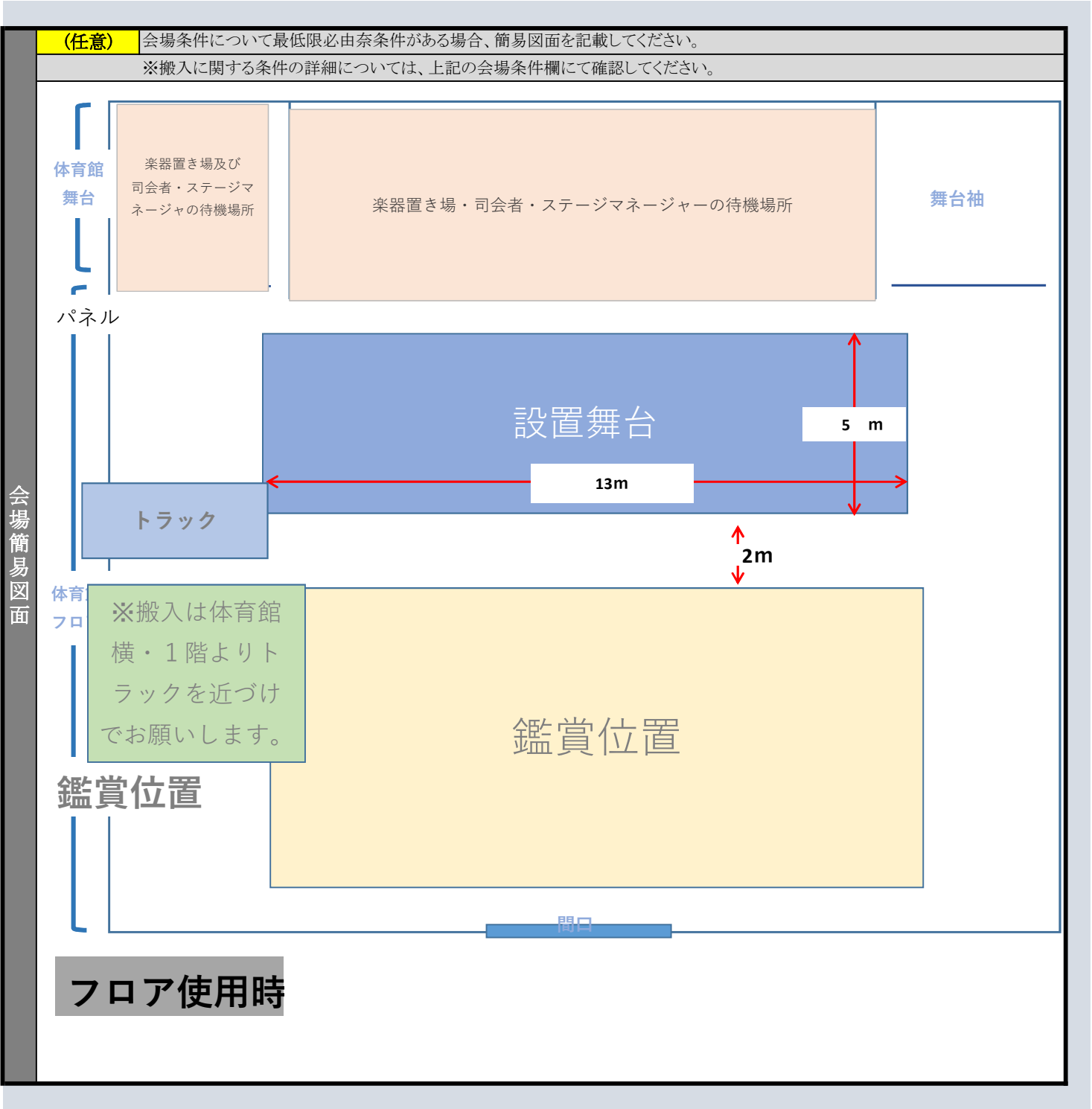
※表から数値を取得しますので、セルの結合や行の挿入・削除は行わないでください(幅や高さの調整は問題ありません)。

学校からの情報

(任意)	学校からの提出を求める資料がある場合のみ記入してください。				
会場図面の提出要否	要				
その他提出が必要な資料 (搬入間口や搬入経路の写真の提出等)	搬入間口・搬入経路の写真				

時間外対応	(任意)	万が一、ワークショップや本公演のための児童・生徒の練習や製作物の作成に係る時間が、ワークショップや本公演の時間以外に別途発生する場合には、必要となる練習時間や製作時間等を必ず明示してください。				
	なお、一部の児童・生徒のみが授業を抜けてリハーサル等や練習を行う必要がある場合は、実施校とのトラブルを避ける観点からもその旨を必ず記載してください。					
	※上記の際は、対象となる児童・生徒の保護者の方への事前連絡や御了承を得る必要があるか否か等含め学校と十分に調整をしてください。なお、その際、代表以外の児童・生徒へもご配慮ください。					
		対象	所要時間(分)	時間帯	内容	備考
	ワークショップ	共演、参加又は体験対象となる児童・生徒	1コマ	給食・下校時間を配慮した1時限分	小編成によるミニコンサート・指揮者体験(主に本公演で代表で出られる児童・生徒)	体育館でできない場合音楽室等で少人数で実施可能です。
	ワークショップ					
	本公演	鑑賞対象となる児童・生徒全員	約90分(途中トイレ休憩10分含む)	午後授業時間帯	指揮者体験コーナーを含む約90分、オーケストラによるプログラム	オーケストラの搬入・設置におよそ2時間かかるので給食後が最も適切。
	本公演					

個別確認事項	(任意)	上記条件や資料以外に、公演実施に当たって学校へ個別の確認が必要な事項がある場合、記載してください。	
		個別ヒアリング事項	
	1	2階以上の場合はエレベーターの大きさと体育館までの搬入経路の確認	
	2	楽団員控室(男性30名・女性30名)と指揮・司会・コンマス・楽員ソリストそれぞれの控室の用意が可能か	
	3	搬入・昨今の交通状況を加味して午後(給食後)の時間帯の公演を希望します。	



別添	なし
----	----

【公演団体名 公益財団法人 新日本フィルハーモニー交響楽団 】

本事業を通じて実現したいこと、また当該工夫	<p>【本事業を通じて実現したいこと】</p> <p>●オーケストラを通じて、他者への興味を持たせ、協調性を学ぶ</p> <p>オーケストラは一人では演奏出来ません。約60名もの異なった個性を持った人間が集まり、様々な音色を持つ楽器を演奏することで、一つの音楽を作り上げています。ある楽器(奏者)が演奏しているときには休んでいる楽器(奏者)がいたり、同じタイミングだけれども全く違ったリズムや音色をぶつけ合ったり、あるいは譲り合ったりすることで、美しく壮大なアンサンブルとしての音楽が出来上がります。みなそれぞれの個性をもった音色をしており、だからこそオーケストラは面白く、可能性が広がっているのだということが演奏から感じ取って頂きたいと考えております。その個性豊かな音楽家たちの演奏を、指揮者は音を出すことなくまとめ上げます。そのような社会の縮図ともいえるオーケストラから、個性の大切さや他者への配慮、協調することの意味を学んでいただきたいと願っています。</p> <p>●こどもの芸術体験における音楽の最適性</p> <p>さまざまな文化芸術活動があるなかで、音楽の果たす役割の大きさについてアウトリーチなどを通じて楽団のなかでもよく議論されています。絵画や工作は手先の器用さなど個人の能力に付随してしまう部分もあり、特に成長の度合いにばらつきのある小学校・中学校の児童生徒のかたには体験として充実が難しい場合も多いかと思えます。音楽の鑑賞に先立って、用意しなければならないというものが無いということで、幅広い学年・児童の方々に楽しんで頂くことが出来るのではないかと考えています。一方、耳に障がいを抱えている児童生徒の方にも楽しんで頂ける工夫も必要で、音を振動と色で伝えるサウンドハグといった機械をオーケストラのホール公演では導入した公演もホールでは行っております。体育館ではまだ難しいかもしれませんが、多くの方へ分け隔てなく伝えられるオーケストラとしての活動をもっと広げていければと考えております。</p>
	<p>【上記の実現に向けて、実施の工夫】</p> <p>●実施経験豊富なプログラムによる事業実施</p> <p>当楽団が長年墨田区やその他地域で取り組んできた曲を多く取り入れました。分かりやすいプログラム、定番クラシックから法人作曲家の演奏、いわゆる「本物」の音楽を緩急を織り交ぜ、かつ軽快なトークでフォローすることで生徒たちの興味をそらさない工夫をしています。また指揮者の方のお話をいれることで、演奏家とは別視点の音楽が伝わればと考えております。</p> <p>●ワークショップの効果的な活用</p> <p>ワークショップでは本公演に向けて理解と興味が深まるような指導と、指揮者・演奏者と直接触れ合い意見を交わすことでより期待を高め、本公演に臨めるような工夫をいたします。</p>
本事業への応募理由等	<p>【学校との連絡調整について】</p> <p>●経験者による学校様との十分なコミュニケーション</p> <p>子供に対する音楽普及活動の経験が豊富な楽団員、事務局員を巡回公演担当として配置します。窓口を明確にすると共に、公演実施まで随時相談頂くことが可能な体制と致します。</p> <p>事前打合せ時には、公演実施にあたり必要となる情報を事前に学校側に明示し、効率的に打合せを進めます。きめ細かなコミュニケーションを通じて学校側の不安を極力取り除くことも事前打合せの重要な役割と認識しています。</p> <p>●本番公演スタッフ体制の充実</p> <p>本公演においては会場設営までの時間が限られ、当日の天候等により臨機応変な対応も必要になります。このため、先入りの舞台配置スタッフと、楽団員随員のスタッフと持ち場を分担し、公演の成功に向けて万全の体制で臨みます。</p>
	<p>【対象児童・生徒に応じた工夫や留意点について】</p> <p>本事業では、対象となる児童・生徒の年齢や特性にかかわらず、誰もが安心して音楽を楽しみ、学ぶことができる環境づくりを重視致します。</p> <p>まず、児童・生徒は学年や個々の成長段階によって集中力や理解の仕方に違いがあります。そのため、演奏プログラムは定番のクラシック作品から親しみやすい楽曲までを織り交ぜ、分かりやすい解説やトークを交えることで、音楽に対する関心を幅広く引き出す工夫を行います。また、楽器紹介や、指揮体験(クラスメイトが指揮を体験する姿を見る経験)といった参加型の要素を盛り込み、受け身の鑑賞にとどまらず、自分も音楽をつくる一員であるという実感を得られるように致します。</p>
事業を適切かつ円滑に実施するための工夫	<p>【本公演等実施後の児童・生徒への継続的な学びについて】</p> <p>本公演では、ナレーション付きの楽器紹介や実演、若手楽員による協奏曲形式の演奏、指揮者体験コーナー、身近な曲の演奏などを通じて、児童・生徒がオーケストラの楽器や役割、演奏構造を自然に理解できる構成となっています。</p> <p>これにより、児童・生徒は楽器の音色や役割、アンサンブルの仕組みを体験的に学び、身近な曲との比較を通じて音楽への関心を持続させることができます。また、プログラムの多様なジャンルや表現の提示によって、聴くたびに理解や感性を深め、授業や学校生活の中で自然に振り返ることができるため、継続的な学びの基盤となります。</p>